修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3—36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

# 研修旅行の拡大強化

## 組織あげて推進へ

### 全修協・地区会議開く

十一月末から十二月中旬にかけ全国五か所で開かれた全修協の本年度地区会議では山本理事長自らが先頭に立ち、役員を含む各支部長や友誼諸団体の代表が本部提案に対し長時間にわたる検討を行なってこれを承認、直ちに本部事務局は作業に着手した。おもな議案は研修旅行の推進強化で、来年度はコース数の増加と、各地区の要望にこたえて退職教職員のため、春秋二季の実施、および海外コースの拡大、研修内容の充実、参加者の倍増獲得など。これに対し出席者は全修協の担う使命をあらためて認識、教育界の総力をあげ研修旅行の成功に邁進することを誓い合った。かくて第二十三回を迎える研修旅行は飛躍的な発展が期待されるところだ。

本年度の全修協地区会議は十一月二十八日の東北を皮切りに、同三十日北陸・東海、十二月七日中国・四国、同十一日九州、同十五日関東で支部長、友誼団体代表者、全修協山本理事長、本部事務局職員が出席して開催。

山本理事長挨拶のあと本年二月十八日の第十九回通常総会以降、現在までの修学旅行と研修旅行に関する業務報告がおこなわれた。協議として第一号議案「五十四年研修旅行の実施に関する件」第二号議案「修学旅行の調査研究に関する件」について検討審議した。

第一号議案では本年度の反省に立って来年度の大綱が検討され、基本計画としては中間期の実施をはじめ退職教職員の動員、コースとしては中国、ヨーロッパ、ハワイをふくむ海外コースの導入、さらに内容としては滞在型などの新企画などを登場させることになった。

また、募集活動の強化については、目標人員の獲得に本部、支部友誼団体が一体となってこれを推進し、念願の一万名達成に総力をあげることに決定した。

第二号議案では修学旅行の調査研究活動について、本年度も「全国都道府県基準概要調査」を行ない冊子としてまとめたが、推移する修学旅行の実態に備え、来年度も継続事業として実施することになった。なお本年は特別調査として「全国私立高校中学校修旅実態調査」も行ない、これも冊子にして関係方面へ配布した。

地区会議で決定した来年の研修旅行の地区別・季別募集計画数は次の通り。

【冬季】
▽東北＝一二〇▽関東＝五〇▽中国（山口）＝四〇、計二一〇。
【春季】（一、二期とも）
▽東北＝一四五▽関東＝四八五▽北陸＝一一五▽東海＝二三〇▽近畿＝八四〇▽中国＝一六〇▽四国＝六〇▽九州＝一二五。
【夏季】（前、後期とも）
▽東北＝一〇四〇▽関東＝一六六〇▽北陸＝三八〇▽東海＝五九〇▽近畿＝一八五〇▽中国＝七〇〇▽四国＝二七〇▽九州＝七一〇
【秋季】
▽東北＝一三〇▽関東＝二一〇▽北陸＝六〇▽東海＝八〇▽近畿＝二八〇▽中国＝四〇▽四国＝二〇▽九州＝一〇〇。
合計では東北一四三五、関東二四〇五、北陸五六五、東海九〇〇、近畿二九七〇、中国九四〇、四国三一〇、九州九七五。総計一〇五〇〇。

## 全修協通常総会

### 来年2月7・8日熱海で

財団法人・全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）の第二十回通常総会は、二月七、八日、静岡県熱海市の新熱海ホテルに全役員支部長および友誼教育諸団体が参集して開催。第一日は午後一時開会、理事長挨拶、新支部長、職員紹介のあと議長を選出し、本年度の事業報告、修学旅行の改善向上と研修旅行の強化拡大などを主議題に真剣な検討が行われる。第二日は全体会議を開いて総まとめをしたあと午前十一時ごろ閉会する。

## 55年度の輸送計画

### 関修委運営委で検討

【関東支局】関東地区公立中学校修学旅行委員会（永山美知雄会長）の本年度第四回運営委員会は宿泊研修会として十一月十七、八日、茨城県筑波町に永山会長ほか各役員が集って開会。五十五年度の新幹線運行割当てについて協議した。運転はAコース四月十四日から、Bコース同十六日から。

## 風紋

わが家のような狭い小さな庭でも花が咲き乱れ、果実も実り、やがて葉は散りしきる。秋にかけては虫たちの奏でる小夜曲など、四季のうつろいは楽しいものだ。だいぶ以前から庭にそびえるヒマラヤスギのしげみにハトが棲みつき、もう幾羽かの子バトが巣立った。外孫（そとまご）がはじめて私の家に泊った朝、ポーポーと鳴く声に驚いて「あれ、なに」ときいた。▼「ハトのお家があるんだよ。ハトのおとうさん、おかあさんが木の枝を運んで作ったの」「ん、お窓はあるの」「ハトのお家は大きなお茶碗かお皿みたい。葉っぱがあるから雨や雪が降っても濡れないの」孫は不思議な顔をしている。「赤ちゃんのハトは大きくなると飛んでいってしまうの。ボクのおかあきんも、おじいちゃんのところからボクのお家へお嫁にいったでしょ。ハトは鳥だから飛んでいけるの…」その孫ももう来年は幼稚園である▼冬がくるとムクドリがさえずり出した。なんの現象か、ことしはムクドリが非常に多い。キーキーと澄み切った空に響き渡るその鋭い声は、いかにも冬鳥にふさわしい。▼ことしの夏は数年ぶりでヒキガエルが姿を現わした。久びさの対面だったので、とてもうれしかった。水道栓の下で、じっと座っている。ジュール・ルナールのいうように「けちん坊の巾着（きんちゃく）みたいに膨れている」のだった。驚かしては可哀そうと知らぬ顔をしていたら、彼も安心して天の一角をみつめたままだった。いかにもグロテスクな容貌だが、わが庭に棲む仲間だから大切にしてやらねばなるまい。▼それから数日、縁の下あたりに滞在していたようだが、どこへかくれたか姿を見せなくなった。冬の訪れとともに枯葉をかきわけて地中にもぐったのかも知れないとじぶん勝手に決めた。やがて小さな庭にも霜柱が立ち、雪も降りつむだろう。ヒキガエルくん、来年の春まで、ゆっくりとおやすみなさい。（は）

# 輸送をテーマに

## 三地区修旅協で秋季総会

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連絡協議会（永山美知雄会長）の本年度秋季総会（通算第十五回）は「望ましい修学旅行をめざす輸送対策」をテーマに十一月二十四、五日、静岡県伊豆長岡町の長岡ホテルに三地区修旅委員のほか、顧問の全修協 理事 長山 本種一氏、業界代表の近畿日本ツーリスト幹部も出席して開催、国鉄本社旅客局営業課補佐・中沢洋也氏の講演と質疑応答も行なわれた。会議は国鉄の修学旅行輸送をテーマに進められ、赤字に悩む国鉄の現状と修学旅行輸送について、今後の見通しなど、活発な論議が交わされた。また来賓として出席の九州・福岡市の中学校長から三地区加盟の機運について明るい見通しが述べられた。＝三面に関連記事。

定刻午後二時、事務主幹・小泉松雄氏（全修協研究部長）の開会の辞につづいて顧問の全修協理事長山本種一氏は挨拶に立ち次のように述べた。

「修学旅行委員会の使命がますます重大になるとともにその責任も大きくなってきた。昭和二十七八年ごろは修学旅行の事故が頻発したため安全第一を念願に国鉄を中心とする輸送対策をたてた。いらい修学旅行の交通関係事故は激減し、現在では皆無という喜ばしい結果を生み、安全快適な修学旅行がつづけられている。その反面校内の非行、暴行事件などが目立ち、これらが修学旅行にも波及してきたことはいなめない。「修学旅行はこれでよいのか」と社会から指摘されているのも事実だ。換言すれば修学旅行の内面的な問題が提起されているのである。今後も修学旅行が人間形成の場として実施されるよう、信頼される修学旅行にまで伸ばしていただきたい。さいわい、本日は日ごろご指導を願っている国鉄の中沢洋也氏がご出席されているので、輸送面からみた修学旅行について多年のご経験をおききし、さらに、先生がたからも忌憚のないご意見やご質問を述べていただき、みのりの多い会議にしたい」

また、門野敬男氏が教育功労者として文部大臣から表彰されたので山本理事長から記念品がおくられた。

自己紹介のあと国鉄の中沢洋也氏は修学旅行の輸送現況について次のように述べた。

「五十四年の連合体による修学旅行は小学校八百十二校九万八千五百四十一人、中学校三千九百五十二校九十七万二千二百五十六人高校千九十八校四十万三百六十九人で合計五千八百六十二校百四十七万千百六十六人となっている。延べ人員では新幹線二百二十九万八千四百五十七人、在来線が六十八万六千八百七十五人の計二百九十八万五千三百三十二人である」

つづいて経過報告、協議に入り本年度修学旅行実施にともなう輸送、学習指導、方面、生活指導などの諸問題についての意見が発表され、さらに各地区修学旅行の動向と情報の交換、三地区間連繋の強化と組織の拡大について検討した。九州地区、とくに福岡県の三地区加盟については、しだいに軌道にのりつつあることが報告され、福岡市から来賓として出席した大神、岡部、竹内三氏に対し今後の活動を全員が期待して第一日を終了した。

第二日は修善寺、源頼朝の墓など源氏ゆかりの史跡をはじめ韮山の江川邸、反射炉、さらに三島神社に詣でて午後二時散会した。

【国鉄側との質疑応答は三面に】

三地区修旅連絡協の秋季総会（静岡・伊豆長岡で）

### 出席者

（順不同、敬称略）

【関東】永山美知雄（茨城・水戸二中）酒井宝祐（千葉・松戸三中）沢田三郎（埼玉・高麗川中）石川太四郎（栃木・犬飼中）木村一郎（群馬・沼田中）
【東海】塚本時丸（愛中）高木義朗（長良中）西沢増太郎（浜島中）
【近畿】門野敬男（大正中）桜井勇助（第二乙訓中）谷田隆（長尾中）仏性紀男（堅津中）玉置豫郎（上山路中）
【九州＝来賓】大神一雄（舞鶴中）岡部利安（百道中）竹内美博（友泉中）
【顧問】山本種一（全修協理事長）
【業界代表】前田敬二郎（近畿日本ツーリスト国内旅行部長）高坂知忠（同関東営業部長）
【全修協】小泉 松雄（研究部長）曽田震五（大阪事務所長）鬼頭藤松（名古屋分室長）早川泰雄（広報部長）

KANSAI KISEN

思い出の修学旅行
印象的な、
瀬戸内海の船旅

●貸切専用船「こはく丸」もご利用下さい
●阪神／別府航路（毎日3便）
●阪神／小豆島・高松便（毎日1便）
●東神戸／日向（宮崎）フェリー（隔日1便）

お問合せは＝大阪市港区弁天6—7—15 ☎(06)574—9161
東京都中央区八重洲1-9-9 ☎(03)274—4271
ほか、各地支店駐在員・旅行代理店へ
関西汽船

学ぶ、残す、
自己を見い出す
修学旅行にしたい。
ツーリストが
お世話します。

ツーリストは学校の主体性を尊重し、その特性に沿った個性ゆたかな旅づくりと積極的に取組んでいます。地元警察や病院などとの協力体制を密にし、万が一の事故にも万全の構え。また、事前指導用の修学旅行映画を制作し、指導の推進をバックアップ。多彩なご要望に綿密なプランで すばやくお応えしています。

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

第23回

# 来年の研修旅行決る

## 国内外の46コースで

### 滞在型や退職者向けも

地区会議で決定した来年の第二十三回教職員研修旅行は、海外をふくめて延べ四十六コースにおよんでいる。しかも従来の三季制に秋季も加わったので年間を通じての実施となった。特色としては滞在型を取り入れたもの、形態、内容に新風を吹き込んだことで、いずれも教職員の要望にこたえたコースばかり、さらに従来の現職教職員とその家族中心から退職者にまで募集範囲をひろげたことによって一万名獲得の悲願も達成されよう。なお、春季の募集用チラシは来年一月はじめに各学校などに配布される。

**冬**

【一般研修】

▼沖縄と八重山諸島（一月三日―同七日）東京、千葉、山口で実施。

▼沖縄本島（一月十一日―同十四日）北海道、青森、秋田、岩手で実施。

**春**（一期＝三月下旬）

【一般研修】

▼木曽路と高山・加賀（北海道東北、関東、静岡、三重、中国、四国、九州で実施）

▼山陰の小京都＝萩、津和野、山口（中国、四国、九州を除く全地区で実施）

▼西九州（中国、四国、九州を除く全地区で実施）

▼沖縄と八重山諸島（全地区で実施）

【特別研修】

▼鎌倉の歴史散歩（北海道と青森、秋田、岩手を除く地区で実施）

▼陶郷・美濃、瀬戸と木曽路（北陸、東海を除く地区で実施）

▼早春の京都（近畿を除く全地区で実施）

▼ふたつの飛鳥と山の辺の道（近畿を除く全地区で実施）

▼若狭の文化と越前陶芸村（近畿だけ実施）

▼筑紫路と壱岐の島（近畿だけ実施）

▼国東半島の石造文化（近畿だけ実施）

**春**（二期＝五月）

★退職教職員対象

▼桜の吉野と高野山（全地区で実施）

▼彦根・若狭と天の橋立（同）

▼四国路＝オリーブの島と金刀毘羅詣り（同）

**夏**（前期＝七月下旬―八月上旬）

【一般研修】

▼北海道一周A（北海道を除く全地区で実施）

▼北海道一周B（同）

▼知床・納沙布（同）

▼利尻・礼文（同）

▼東北一周（北海道、東北を除く全地区で実施）

▼奥東北（同）

▼磐梯・蔵王と出羽路（同）

▼佐渡島と能登・越前（北陸を除く全地区で実施）

▼信濃路（関東、北陸、東海を除く地区で実施）

▼木曽・飛騨路とアルペンルート（北陸を除く全地区で実施）

▼吉野・十津川と熊野路（近畿を除く全地区で実施）

▼四国一周（近畿、中国、四国九州を除く地区で実施）

←本年度夏季研修旅行写真コンクール推薦作品・東北一周コース「わんこそばで舌づつみ」小谷幸男氏（京都府）

↑本年度夏季研修旅行写真コンクール北海道観光連盟賞「野付半島トドワラB」川田勇氏（栃木）

▼芸予諸島（同）

▼山陰一巡（同）

▼九州一周（同）

▼沖縄と八重山諸島（全地区で実施）

【特別研修】

▼奥の細道＝芭蕉をたずねて（北海道、東北を除く全地区で実施）

▼尾瀬の探勝（東北を除く全地区で実施）

▼安曇野と塩の道（北陸を除く全地区で実施）

▼大台が原と大杉谷（近畿だけ実施）

【滞在型】

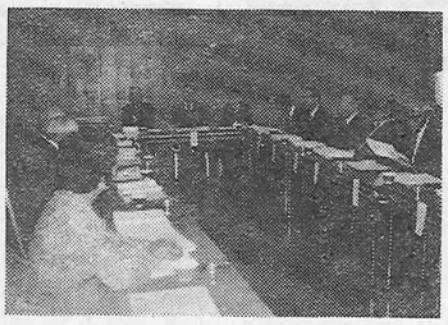
▼信州佐久の文学と藝科の自然（北海道、青森、秋田、岩手と近畿を除く全地区で実施）

▼比叡山と近江路（近畿を除く全地区で実施）

夏の後期と秋および海外コースなどは次号に。

## 都の研旅推進委

―現・元校長が懇談―



【関東支局】全修協東京都支部（青山良道支部長）では、教職員研修旅行を拡大しようと十二月一日午後、東京・新宿の都教育会館で推進委員会を開いた。参加者は都内の元学校長や現職の校長、教育関係者で、いずれも研修旅行の理解者ばかり。

本部の前田事務局長挨拶のあと青山支部長（全修協理事）が座長となって懇談に入り、本部から来年度コースの説明があった。

すでに二十回も参加している池沢弘人氏は「りっぱな講師による研修は、ほかの旅行団では求められない。教職員中心の旅行だけあって十分に満足できるものだ」と語り、また推進委によって〝友の会〟を復活させようなどの意見も出たほか研修旅行の思い出ばなしにも花が咲き、楽しいひとときであった。

当日の出席者は次の通り。（順不同、敬称略）

鈴木春之助、板倉三郎、朝比奈鉄雄、池沢弘人、夏村ツ子子、田中兎、飯田清、岡部修、蛭田稔、村越重信、桑原亥左雄。

【全修協】青山良道（理事、都支部長）前田寛（事務局長）森本良雄（常任参与、総務担当）藤田勝次郎（研修部長）内山愿二（中央研修部員）＝写真は推進委会場

## 全修協の懇談会に思う

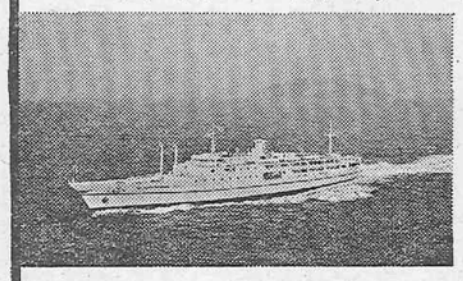
飯田　清

小春日和に恵まれた十二月一日の午後、神楽坂の都教育会館で全修協東京都支部の懇談会があり、私も出席した。

青山東京都支部長はじめ全修協から五名、招かれた人たちは十一名で、旧知の方も多く、なつかしかった。来年の研修旅行コースの発表や、既参加者からの体験や要望など、一時半から四時半まで活発な意見が出て大いに啓発された。五時までの小宴も和やかに、名残りはつきなかった。

来年三月で私も五十年の公職に終止符。三月末に実施される三泊四日の山陰の小京都コースには、妻と行くつもりだ。わが家は代々津和野藩士。父祖の地に勤めを果たせた姿を見せに――。（[redacted]）


若者・紺青の海・純白の船



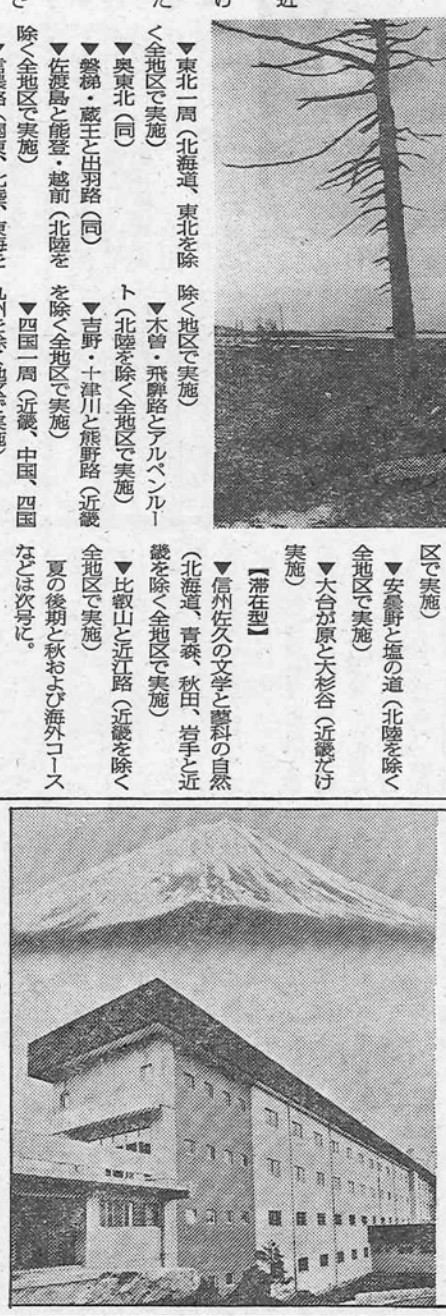
貸切専用純客船

さくら（13,000トン）

ひかり（4,000トン）

・スケジュール・コースはご自由に
・旅客定員 1,800名
・サロン・休憩室・医務室完備
・船内でのグループ活動・学習に最適
・全室エアコン完備
・一般客との混乗なし

Ⓐ大島運輸株式会社東京支店　東京都中央区日本橋通1－3－11 浅野ビル9F　TEL 03-273-8911



富士の美しさが眼前
樹海の中の国民宿舎

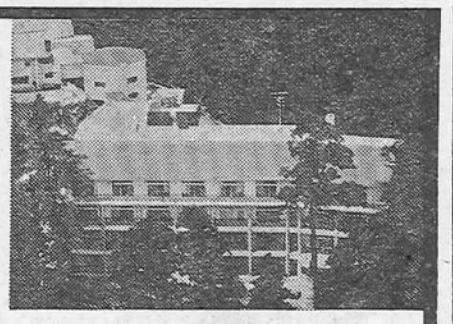
標高1,000メートル、赤松樹海に囲まれた白亜のロッジ。森林公園や陶芸教室などの他ハイキング、テニスコートなど楽しみも豊富です。もちろん修学旅行にも最適の環境にあります。

富士山北ろくの国民宿舎
富士スバルランド
予約センター☎05557－2－2236

修学旅行のお宿に
全館を開放

■延暦寺会館本館
■別館比叡
■延暦寺会館第1別館
■延暦寺会館第2別館
〈収容600名様〉

☆素晴らしい琵琶湖の夜景
☆根本中堂で早朝の座禅
☆スッキリした気分で次のコースへ
☆頭のよくなる精進料理
☆夜間は講話や映画上映を無料でご奉仕



〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917

経験で奉仕する　修学旅行のメッカ本郷へ

東京のお泊りは
文教の地〝本郷〟で

―近畿日本ツーリスト協定旅館連盟東京支部本郷地区会員―

平安荘
朝陽館（本家）
本郷館（別館・本館）
日本学生会館
旅館かつら
文京館
真成館
富士館
朝明館
機山館
旅館大正園
ふたき旅館
追分旅館
長栄旅館